

Ⅱ 03 社会

問題構成

本校の社会の入試問題は、基本的知識の確認だけでなく、社会的事象に対する関心の有無、それぞれの事象の相互関連性やその背景について理解する力、基本的知識を使って資料を読み解く力を問うことに重点を置いて出題しています。

各回とも、歴史分野、地理分野、公民分野からそれぞれ1題ずつ、計3題の大問で構成されています。なお、歴史分野・地理分野の大問に比べ、公民分野の大問の配点を少なめに設定しています。以下は、2022年度入試の各回の出題テーマです。

- 第1回
- ① 身分や格差をテーマにした歴史分野の問題
 - ② 国立公園をテーマにした地理分野の問題
 - ③ 選挙権をテーマにした公民分野の問題

- 第2回
- ① 税をテーマにした歴史分野の問題
 - ② 世界地図の図法をテーマにした地理分野の問題
 - ③ 憲法改正をテーマにした公民分野の問題

以上のように、各大問はあるテーマに沿って作られています。しかし実際の各設問はそのテーマに限定せず、幅広い分野から出題しています。従って、どこかの分野や範囲に集中的に力を入れて学習するのではなく、まずは基本的知識をしっかりと確認し、全体をまんべんなく学ぶ堅実な勉強を心がけてほしいと思います。設問の数は、例年、各回でそれぞれ38問～40問程度です。問題数が多いので時間配分にも注意して解答することも求められます。

設問の形式は、基本的な用語の知識を確認する記述式問題、あるできごとについての正確な理解や詳細な知識を問う正誤判定問題、社会的用語をはじめ地図やグラフの読み取りに関する問題、歴史的なできごとを起こった順番に並べかえる問題など、多様です。中には問題文中の空欄の穴埋め問題や、下線部に関する設問以外の問いを出す場合もあります。設問の中心は基本的な知識を問うものや、その知識を前提に考えれば解ける問題です。社会科の学習は、用語を覚えればよいというものではありません。しかし、思考する前提として正確な知識は不可欠です。

また、本校では図表の読み取りや歴史上の事象・現代社会の問題の背景にある因果関係などを、1～2行程度（字数指定の場合もあります）の記述問題として問うています。こうした問題を出題するのは、普段からその用語の意味や、あるできごとが起きた背景・理由を考えながら学ぶ姿勢を持ってほしいからです。

社会の入試問題では、用語を答える単純な記述式問題において、原則として漢字指定や文字数指定、場合によってカタカナ指定などによる解答を求めています。そのため、参考書や教科書に漢字で書かれている用語については、正確な漢字で書けるようにしておく必要があります。解答にあたっては、設問ごとに「何を問われているのか」を正確に把握し、その設問の指示に従って解答するように心がけてください。なお、リード文もよく読み、解答の参考にしてほしいと思っています。**2022年度入試第2回の③問10**では、リード文の文章と資料の読解力を問う問題を出題しています。

歴史分野の出題の意図

本校では、中1・中2の2年間をかけて、日本を中心とする歴史を学びます。その前提として、日本の歴史についての基本的かつ正確な理解を求めています。

例えば、**2022年度入試第1回**の①問13は、明治以降の工業の進展について、明治期の日清・日露戦争後、大正期の第一次大戦後など、時期ごとに特徴を正確に理解できているか確認する問題です。八幡製鉄所、労働争議といった用語の内容や時期などを正確に理解することはもちろん、その背景や影響なども丁寧に把握しておくことが大切です。**2022年度入試第1回**の①問10は明治期の様々な分野で活躍した人物に関する出題ですが、人物についても、その人物の功績やできごとを時代背景を含めてまとめたりすることで歴史的事項をより深く理解できるはずで

また、歴史の正確な知識を身につけようとする、その時代に関する知識ばかりに集中してしまいがちです。しかし、歴史の学習に必要なことは、各時代の個々のできごとを歴史の中にきちんと位置づけて理解することです。このような学習が日常からできているかを試すために、各回ともおおまかな歴史の流れを問う並べかえ形式の問題を必ず出題するようにしています。並べかえというと、「そのできごとの起こった年を丸暗記して順番にする」ととらえられがちですが、歴史上の人物やできごとの流れをその時期の時代背景の中で大きくとらえて位置づけることが求められています。**2022年度入試第1回**の①問2は、奈良時代から平安時代におけるできごとを並べかえる問題であり、摂関政治を行った藤原氏の勢力の拡大に関連する問題です。問題文には未習の人物も登場しますが、C奈良時代の遣唐使に関連するできごと→B藤原氏が菅原道真ら他氏の排斥を行って勢力を強め始めた頃で、菅原道真が遣唐使の停止を提言した後のできごと→A摂関政治の最盛期であり、遣唐使停止以降の国風文化の代表建築である平等院鳳凰堂の建立という流れに位置づけて考えることができます。

並べかえ形式の問題に対応するためには、あるできごとがどの時代の特徴を表しているのか、前後の歴史の流れとどのような関連があるのか、という点を意識して学習することが重要です。

地理分野の出題意図

地理は、今私たちが生きている世界や日本のあり方を、地図や統計、写真といった資料を駆使して理解し、視野を広げていく科目です。「地理」＝「暗記科目」というイメージが強いかもしれませんが、確かに、地名など覚えなければならないことも多くあります。しかし、それは地理学習のゴールではなく、あくまでスタートであることを忘れてはなりません。「地理」とは、読んで字のごとく「大地の理（筋道や理由）」を学ぶ科目です。地理学習の楽しさは、自然（地形や気候など）と人間活動（農業や工業など）の関係や、地域の共通点や相違点を理解することにあります。本校での地理学習においても、このようなつながりを意識して学ぶことを大切にしています。

地理分野の出題においては、日本各地の自然や産業を中心に、グラフや統計の読み取り問題を出題しています。例えば、**2022年度入試第1回**の②問1や問9は、日本の都道府県の自然環境や農業の特徴を理解しているかを問う基本的な問題です。まずは各地域の基礎的な特徴を学習し、その共通点や相違点を意識することが大切です。**2022年度入試第1回**の②問6や第2回の②問5のように、地図を使った出題もしていますので、地理を学習するときには、地図帳を手元において、場所を確認しながら取り組むようにしましょう。そして、**2022年度入試第1回**の②問5（日最高気温と日最低気温）や第2回の②問3（降水量と水資源量の関係）のようなデータを読み取る問題で

は、グラフや表が表していることの意味を理解し、知識と結び付けることが大切です。このようなデータは、私たちの生活の実態を表現したものです。日常生活の中で自分が体験したり、ニュースで聞いたりしたことを思い浮かべることで正解にたどり着くこともできるでしょう。グラフや統計の読み取りでは、その資料がどのような事象を表しているのか、という点を意識して学習することが重要です。

公民分野の出題意図

本校の公民の学習において目指していることは、「自らが社会を作る主体であるという自覚を持つこと」です。本校では、社会の中で日々生活する中で、社会に存在している価値観や規範に無批判に従うような存在としてではなく、今ある価値観や規範の意義を批判的に考察し、よりよい社会の実現のために自らの学びを活かすことのできる存在になって欲しいと考えています。そのため受験生には、まず現代社会のあり方について基本的なことから理解することを求めています。出題する多くの問題は、日本国憲法や基本的人権の内容、国政や地方自治の仕組み、財政や経済の仕組み、国際社会の理解など、さまざまな分野における基本的なことから問うものになっています。そして基本的な知識の習得はもちろんですが、単なる暗記ではなく、さまざまな課題に対して自分の持っている知識を活用することが求められています。そのためには、問われているものが何であるのかをしっかりと理解し、それに対する適切な答えを導き出していく力が必要です。

また、現代社会で起こる変化についても目を向け、理解を深める習慣をつけてほしいと思います。これは社会の制度やその背後にある価値観の変化についての理解を深めることで、社会について主体的に考える力を養うことができるからです。公民分野では時事的な知識を問う問題を必ず出題しています。新聞やテレビなどを通してニュースに触れ、社会に対して関心や問題意識を持ってほしいからです。その際、ニュースの内容と普段学習していることがらを結びつけると、より理解が深まります。例えば **2022 年度入試第 2 回の 3 問 5** の地方自治の制度や国会の選挙制度についての知識を問う問題、**第 2 回の 3 問 6** の総務省と用語を答える問題は、2021 年の衆議院議員選挙やマイナンバーカードなど、ニュースで話題となったことを意識した出題です。ニュースなどで話題になることがらについては、それを単に情報として受け取るだけでなく、当事者意識を持つことで理解が深まり確かな知識となるでしょう。